フイリピン滞在記 ⑭---セブ島とボホール島で夏のリフレシュ休暇を過ごす

ルソン大学日本語教師 為我井輝忠

３月下旬から５月中旬までの２か月程日本に一時帰国した。フィリピンでも日本と同じように３月下旬で大学を始めすべての教育機関は学年末が終わるのは日本と同じであるが、違うのはフィリピンではその後夏休みに入ることである。６月中旬までの３か月近くが夏休みとなり、それで今回はその期間に合わせて日本へ帰国した訳である。フィリピンではこの時期が一番暑く、私が住んでいるパンガシナン州ダグーパンでは気温が35度を超え、毎日耐え難い日々を過ごしてきた。しかも、次期６月あたりから雨季に入るために雨が降ることも多くなってきた。

私が教えているルソン大学では６月21日に新学期最初の授業があり、それまで４週間の余裕があった。今回は家内を伴って戻って来たので、その間一緒にどこかへ行ってみたいと思った。候補地はセブ島である。日本人観光客に人気のあるところであり、一体どんなリゾート地があるのか大いに興味があった。５月21 ～ 29日までの８泊９日の滞在であった。

セブ島だけではもったいないのですぐ隣にあるボホール島にも足を延ばすことにした。５月21日マニラ国際空港（ニイノ・アキノ空港）発９時30分のセブ・パシフィック航空で出発した。セブ・パシフィック航空はフィリピンのLOC（格安航空会社）の一つで、往復8,000円もしないで航空券を予約することが出来た。安い代わりにサービスに類するものは一切ない。

マゼラン・クロス

フライト時間は１時間半ほどで、あっという間にセブ空港に着いた。以前、セブ空港はセブ島にあるものと思っていたが、そうではなくすぐ隣のマクタン島にあると知って驚いたことがあった。万事がこんな具合で、事前にあまり調べていなかった。ホテルにはタクシーで30分ほどかかった。

私も家内もダイビングやスノーケリングはやらないので、リゾート地に行ってもビーチを散歩したり、プールで泳いだり、のんびり本を読んだりするくらいで、これだけで充分である。最大限に求めたものは、何よりも日頃のあくせくした生活から解放されることである。今回宿泊したところは、セブ島では前半がセブ市内のAzia Hotel（アジア・ホテル）で、これはシテイ・ホテルである。後半はマクタン島のCostabella Tropical Beach Resort（コスタヴェラ・トロピカル・ビーチ・ホテル）であった。後者のホテルはかなり奮発した。普段はあまり泊まらないようなホテルであるが、今回はリゾート地に滞在して、のんびりしたいと思ったので、これは大正解であったと言える。何よりもゆったり、のんびりできたことである。

セブ島では主にセブ市内を中心に歴史的な名所旧跡を訪ねた。この島はフェルディナンド・マゼランが率いるスペイン艦隊が1521年に初めて上陸した地で、それに関係した場所がいくつもある。今回そうしたものを訪ねてみたいと思った。

マゼランのセブ上陸は、スペイン統治時代の幕開けであるとともに、フィリピンを世界史の表舞台へ登場するきっかけとなった。統治者たちは宗教、食文化などの生活スタイルや建築様式に至るまで幅広い影響を人々に与え、これらをフィリピン全土に浸透させていった。そのような背景から、セブ市には教会を始め当時の古い建造物や史跡が多く残っている。また、食習慣や言葉なども当時からの流れを汲んでいるものが多い。正にフィリピンという国のオリジンがここにある。

まず訪ねたのは、セブに来る観光客なら必ず訪れる「マゼラン・クロス」というマゼランが造ったという木製の十字架が収められている六角堂である。ここはフィリピンにおけるキリスト教の第一歩を示したところである。昔からこの十字架を煎じて飲むと病に効くと言い伝えられ、少しずつ削り取って持ち帰る人があとを絶たなかった。そこでこれ以上の損傷を防ぐために、硬い木で作ったカバーで覆われている。

このマゼラン・クロスのすぐそばに「サント・ニーニョ教会」がある。1570年に建設されたフィリピン最古の教会で、この教会にはマゼランがセブの女王に贈ったとされるサント・ニーニョ（「幼きキリストの」の意）像が収められていて、人々がこの像の前で祈る姿がよく見られる。サント・ニーニョ信仰はフィリピンで盛んであるが、特にセブ島のあるピサヤ地方では顕著である。

その他にもマゼランとスペイン艦隊のセブ上陸の様を表した記念碑もあった。マクタン島ではマゼラン記念碑とラプラプ像などもあり、興味が尽きない。マゼランはマクタン島でこの地の酋長ラプラプと戦いに臨んだが、彼に殺された。それを記念した碑が建っている。ラプラプは侵略者を阻止した英雄としてその名を残している。

地震で崩壊したバクラヨン教会

セブ島に5泊した後ボホール島へ移動した。ボホール島はセブ市から船で1時間半くらいのところで、手軽に移動できた。ボホール島では州都のタクビランに4泊滞在した。ここを起点にチョコレート・ヒルズ、メガネザル「ターシャ」飼育センター、ロボック川クルーズ乗船、バクラヨン教会を訪ねた。ボホール島は2013年10月に発生した地震で大きな被害を受けたが、バクラヨン教会はいまだに修復の見通しが立たず、かつての美しい教会の姿を見ることが出来ない。

こんな風にして9日間のスブ島とボホール島のリフレシュ旅行は終えた。やや長めの旅行であったが、家内もフィリピンの美しいビーチを楽しむことが出来、大いに満足したことと思う。私自身もこれから始まる後半の仕事に臨んで、大いに英気を養ったと言ってもよいだろう。